

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
41327吉野ヶ里町	③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	地域のかかわりの希薄化による体験する機会の減少によって、子どもたちの体験活動の機会、および他者との交流機会が減少している。	・長期休みには夏冬合わせて、計9回の講座の実施ができ、参加するのべ人数も増加した。関連施設との連携については、情報共有や参加呼びかけを行った。	・長期休みの体験教室の回数増に伴う参加延べ人数の増（令和5年度135人→145人） ・放課後児童クラブや児童館などの関連施設と連携した活動の展開 ・子どもクラブやスポーツ少年団、スポーツクラブなどの外郭団体との連携を図る	子どもたちが安心安全に過ごせる、放課後の居場所を充実させる。	・放課後子ども教室に参加する子どもの延べ人数	135	人	145	150	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた 令和5年度からさらに教室の実施回数を増やしたことで、子ども教室に参加する子どもの延べ人数が増加し、居場所の増加につながったと考えられる。 関連施設や外郭団体との連携は情報共有や参加呼びかけにとどまっているため、より多くの子どもたちが参加しやすい共催教室の実施などを進めていきたい。	https://www.town.yoshinogari.lg.jp/lifeinfo/soshiki/shakai_kyoku/2/2_1/1/2/4748.html
41327吉野ヶ里町	③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	家庭学習の習慣化は、町全体で様々なアプローチから推進しているものの、共働きの家庭も増加する一方で、日々の宿題等指導する余裕がない家庭も多い。	・職員の配置について、他業務などの兼ね合いで参加できない日が数日あったが、基本的には支援員2名以上と職員1名以上で教室を実施した。	年間を通して行う学習型放課後子ども教室（金曜学級）において、毎回必ず2名以上の支援員と、1名以上の職員を配置し、参加児童の学習活動を円滑にサポートできるように努める。	自発的に宿題に取り組む児童が増え、家庭学習の習慣化が定着する。	町内小学校に通う児童の一日当たりの家庭学習時間における目標時間の達成度 ※町内小学校実施「家庭学習強化週間アンケート」	60	%	64	65	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた ほとんどの開催日において、2名以上の支援員と1名以上の職員の配置（もしくは3名以上の支援員の配置）を行うことができ、学習活動のサポートに務めた。 昨年度より引き続き、教室では学習活動に加えて、工作や運動といったレクリエーション活動の実施も行った。 時計が読めない1.2年生も「長い針が〇〇まで」といった予定を示すと、計画的に学習を行う様子が見られた。来年度も子どもたちが自発的に取り組める環境づくりに努めたい。	https://www.town.yoshinogari.lg.jp/lifeinfo/soshiki/shakai_kyoku/2/2_1/1/2/4748.html